以上

三〇 登城之面々下馬下乘並供之者之儀觸

登城之面々、石川・河北兩御門之外下乘所、近年猥罷成、一之御門際迄馬・乘物乘用有之候。右に准、持鑓殘所も御門近く爲持候人々茂有之躰に相聞候。前々相極候通、兩御門之外一之御門際より二十間計引下段々下乘、并持鑓殘所之儀も右に准可申事。

一、橋爪御門より內挾箱爲持候儀は、御定茂有之候處、心得違爲持候人々茂有之躰に候。前々御定之通相心得可申事。

一、裏御式臺前供之者共、腰懸に罷在申筈に候處、御弓番所邊等に茂佇有之、不作法之躰に相聞候條、主人々々より作法宜敷可申付事。

右之趣、是以後猥無之樣、夫々嚴重可被申談候。以上。

（寶暦四年）正月

御横目中　　横山大膳

三一 城中召連候徒者數及下乘之儀觸

覺

一、御城中召連候徒者數、御定之通彌相違有之間敷事。

一、石川・河北御門之外一之門に近く下乘有之故に候哉、迄合申樣に相聞え候。前々より之趣有之儀に候間、河北・石川兩御門共一之門より二十間計下り、段々下乘等可有之事。

右之趣夫々可被申談事。

（寶暦十三年）三月十五日

御横目中　　本多安房守

三二 出仕登城之人々心得之儀觸

覺

一、嘉節朔望出仕之時分、御用茂無之人々、諸役所に入申間敷事。

一、橋爪御門より內、御定之外小遣等召連申間敷事。

一、登城之人々退出之節、於橋爪・兩御門之外、同事に家來之者爲呼申間敷事。

一、三之御丸・橋爪御門之內に者、御用懸之外挾箱爲持不申儀者、前々より相定有之候通に候。彌其趣被相心得、二御丸に役所有之人々之外は、挾箱揚申間敷事。

右之趣、前々相觸候得共、今般重而申渡候條、猥無之樣可被相心得事。

（寶暦十三年）四月

御用番村井又兵衛殿被仰渡。